

国語 (現代文)

早稲田大学 社会科学部 1/2

<総括>

出題数	現代文1題・古漢融合1題	試験時間	60分
-----	--------------	------	-----

例年どおり、全問マークシート式。設問数も変わっていない。本文で述べられていることを具体的に理解できているかどうかを問う出題が多く、その点が特徴的である。

<本文分析>

大問番号	(一)
出典 (作者)	仲正昌樹『現代哲学の論点』(2022年3月NHK出版新書)より、第一章「ネット化する世界で『議論』は可能か」の一節。一部、省略されている箇所がある。
頻出度合 ・的中等	この筆者の文章は、入試でしばしば出題される。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約4070字。昨年とほぼ同じ。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	現代社会論	問一	マーク	やや易	傍線部と同じ漢字を選ぶ問題。
		問二	マーク	やや易	空欄補充。直前の「異なった見方」を「拒絶」と、直後の「イデオロギーの違う者同士……困難になっている」を踏まえる。
		問三	マーク	標準	傍線部理由説明。傍線部の前に書かれている具体例に即しているものを選ぶ。
		問四	マーク	標準	傍線部理由説明。傍線部の二つ前の段落と、傍線部以降の内容とを結びつけて解釈する。
		問五	マーク	標準	文の整序(空欄補充)。ホ→ハ→ニ→ロ→イ
		問六	マーク	標準	傍線部理由説明。迷うとすればイだが、「立脚点」や「類似」が誤り。
		問七	マーク	標準	空欄補充。直前の「欲望自体」を「コントロールする」という内容を言い換えた、最も自然な表現を選ぶ。
		問八	マーク	標準	空欄補充。空欄に至る部分に挙げられている具体例を踏まえて考えるが、イがやや紛らわしい。
		問九	マーク	やや難	傍線部に即した具体例の選択。イかホで迷うが、直前にある「押しつけ」「『彼ら』のために」のニュアンスを汲み取っているイを選びたい。
		問十	マーク	やや易	主旨判定。消去法で選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題演習を通じて基本的な読解の練習を積んでおくこと。とくにさまざまなジャンルの評論に積極的にふれたい。語彙力の増強なども心がけよう。

国語 (融合問題)

早稲田大学 社会科学部 2/2

<総括>

出題数	現代文1題・古漢融合1題	試験時間	60分
-----	--------------	------	-----

今年度は古漢融合問題の形式であり、融合した設問が一題出題された。漢文の設問が昨年度は三題だったが、今年度は融合したものを合わせて五題であった。

<本文分析>

大問番号	(二)
出典 (作者)	『東関紀行』 引用漢文は『晋書』卷三十四羊祜伝
頻出度合 ・的中等	古文は頻出出典。この箇所も他大学で出題されたことがある。 引用漢文の『晋書』はしばしば出題される。ただし当該箇所は稀。
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 約1270字。昨年より約930字減。〔漢文は142字。昨年は122字。〕
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化) 漢文は昨年度よりやや難化。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(二)	紀行 (漢文は史 伝)	問十一	マーク	やや難	空欄補充 (和歌の第二句以下の四句を整序する)。〔古文〕	
		問十二	マーク	標準	文の意味 (「堪ふ」の語義に注意)。〔古文〕	
		問十三	マーク	標準	語句の空欄補充 (和歌の第三句を選ぶ)。〔古文〕	
		問十四	マーク	やや易	文法 (「に」の識別)。〔古文〕	
		問十五	マーク	標準	文の意味。〔古文〕	
		問十六	マーク	標準	主語判定 (和歌中の「うかれし」の主語を選ぶ)。〔古文〕	
		問十七	マーク	標準	助動詞の空欄補充。〔古文〕	
		問十八	マーク	標準	文学史。〔古文〕	
		問十九				
		(I)	マーク	やや易	空欄補充。〔漢文〕	
		(II)	マーク	易	返り点。〔漢文〕	
		(III)	マーク	やや難	内容説明。〔漢文〕	
		(IV)	マーク	標準	空欄補充。〔漢文〕	
		(V)	マーク	やや難	内容説明。〔古漢融合〕	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

今後も融合問題の出題が予想されるので、古文・漢文の学習が必要である。

- 古文は、単語・文法・文学史などの基礎知識を確実に身につけた上で、文章を正確に読み解く力を養っておくこと。和歌の学習も怠らないこと。
- 漢文は、句形・重要語・漢詩の知識などの基礎事項から、漢文常識に至るまで確実に習得しておく必要がある。設問箇所の返り点・送り仮名は省略されることが多いので、白文にも十分慣れておきたい。